

教育と文化

No.128

令和4年3月



Contents

- | | |
|--------------|---|
| 2 巻頭言 | 10 かきぞめコンクール |
| 4 三河の文化を訪ねて | 12 みかわ彩発見絵画コンクール |
| 6 教育随想 | 14 ネイチャーウォッチング参加者の声 |
| 7 教室の窓辺 | 15 文振刊行物デジタル化の取り組み
～教材PDFデータのダウンロード手順～ |
| 8 特色ある教育活動 | 16 文振だより |
| 9 優秀論文入賞者の紹介 | |



巻頭言

「出会い」あれこれ ー 校長室からの発「信」 ー

公益財団法人愛知教育文化振興会副理事長 岡田 守

出会いを大切に

「あけましておめでとうございます。みなさんは元旦から今日まで、何回この言葉を口にしましたか、何回耳にしましたか。数え切れないとは思いますが……。」

3学期の始業式に、全校生徒57名に問いかけてみました。そして、その数だけ人と出会ったことになることを伝えました。また、直接出会わなくても、年賀状のあいさつを通して出会いがあったことも付け加えました。私自身も、30余年の教員生活を含め、今までに、教え子、親、恩師、同僚など多くの人たちとの出会いがありました。そして、多くの影響を受けました。出会いには偶然もあり、必然もあるわけですが、そこに縁の不思議さを感じます。だからこそ大切にしたいということを年の始めに伝えたいと思つての式辞でした。新年を迎え「出会い」は私のキーワードになりました。

出会いは人だけではありません。本だったり、言葉だったり、事象だったり、世の中すべて出会いだと言つても過言ではないかもしれません。令和4年になって一番心に残っている出会いは次の文章です。

「時代によって『正しいこと』は変わっていきます。ただ、いつの時代も子供たちは、身近な大人たちがどんなふうに生きているか、とてもよく見ているものです。これを手本にすることあれば、こうはなりたくないと思わざるべきこと

もある。その選択は常に子供ひとりひとりの感性にゆだねられています。自由に選んでいいものなのです」

(中略)

「教師も親も、子供の手本になろうとする。でもそれは間違いだと思ふのです。人は、どこまでいっても未熟で不完全です。ですから、ただ一所懸命生きている正直な姿を、子供たちに見せるほかにないように思ふのです」

(中日新聞朝刊小説『かたばみ』(木内昇著)より)

「正直に生きる」も私が常日ごろ心にとめていることの一つです。自分の気持ちと出会いがタイミング良く重なったときに心は動きます。そんな瞬間でした。出会いを大切にすることというのは、出会いに敏感になることだと思います。

教育は信じること

私の教育信条は「信じること」です。数々の経験を重ねるうちに確固たるものとなってきました。信頼されることは、まずは相手を信用することから始まります。そして、相手に自分を理解してもらわなければなりません。自分を信じ相手を信じなければ、教育は成り立たないと常に自分に言い聞かせています。職員にこの話をする時、「それって、校長先生のよく言われるコミュニケーションの大切さについてことですよ」と反応が返ってきます。伝わる喜び、信頼関係ができていく手応えを感じることができます。

生徒は1／1

「生徒は1／1」、これも日ごろ私が意識をしていることです。全校生徒が57人いるけど、生徒は1／57ではない、生徒は1／1であるからこそ信じることができる、と考えています。これは、かつて、「僕にとっては先生はひとりだけど、先生にとっては『1／全員』だもんね」と言われたことに端を発しています。この生徒のひと言にどきっとしながらも、「教育は信じること」と考えていた自分と生徒の思いをつなぐきっかけとなりました。職員も私にとっては1／1の存在です。出会いを大切にしたい思いの第一歩です。もちろん職員にも、「生徒は1／1」とこの事例を伝えながら話しています。

校長室からの発信

発信の「信」は信じること。信頼関係をつくるためには、校長から積極的に生徒、職員、保護者、地域に発信していく必要があります。自己満足の域を脱せない懸念もあるのですが、まずは動き出すことが大切と考え、取り組んできました。



ハロー！校長室

(1) ハロー！校長室

校長室前の廊下に、校長の掲示板を作ってみました。「ハロー！校長室」と名付けました。自分たちの周りにある恵まれた自然と季節の移り変わりを敏感に感じ取ってほしいという願いから、二十四節気の紹介をしたり、全校朝礼の話や授業を参観したときの内容を校長視線で補足したり、気になった新聞記事にメッセージを加えたりしながら進めています。特に、全校生徒、全教職員の誕生日を月ごとに紹介し、お祝いするコーナーが好評です。「小学校みたいですね。中学校では珍しい」と言われながらも学年や師弟の枠を超えて、校内いたる所で「おめでとうー」の声が聞こえます。お互いを認め合い、出会いを大切にする機会になっている喜びを感じます。本年度は、「ふるさとだより」と題して、地元東栄町にまつわる新聞記事も掲示しています。地域を見つめる目も育てたいと思います。

(2) 校長室の本棚

「読書好きの生徒を育てたい」との思いで校長室の前に本棚を置きました。発端は生徒の一言、「校長先生、おすすめの本はありますか」でした。それから、この生徒との距離は一気に縮まりました。他の生徒からリクエストがあったり、図書委員会が「みんなの本棚」を図書室に作ったりと、少しずつ波紋が広がっています。1年生は、貸し出し簿の欄外に一言メッセージを書いてくれます。ちよつとしたひと言に心が和みます。良い本と出会えて良かったねとあたたかい気持ちになります。

子どもと教師の橋わたしに

三河には20万人余の児童生徒と1万2千人余の教員がいます。そして、それぞれが、お互いの出会いを大切にし、信頼関係を築きながら教育活動を粛々と続けています。

愛知教育文化振興会は、三河の子どもと教師一人一人のために設立されている公益財団法人です。刊行物の出版や教育研究助成、各種コンクールやネイチャーウォッチング等、三河の教育のために様々な事業に取り組んでいます。これらは、教師と生徒との出会い、さらには保護者との出会いや信頼関係の橋わたしをしているといえます。

今年度は、校長会、三教研とともに現場の声を把握することに力を入れてきました。「まずはじめに子どもありき」の三河教育を支援するには、学校現場の先生方や子どもたちの刊行物に対する意見を聞くことが大切です。デジタル化やICTの活用も含め、編集や刊行にさまざまな意見を生かしてよりよいものを作り上げていこうと考えています。

この教育情報誌『教育と文化』は、その活動の取組や成果を伝える、本法人の大切な発「信」源です。三河の先生方の心をつなげる出会いの場とも言えます。

本法人のホームページからはバックナンバーを閲覧することが出来ます。これを機会に読み直してみてください。



大空を彩る200基の風

こつた風揚げまつり

幸田町立中央小学校長 藤井 敦

こつた風揚げまつりは、風作り並びに風揚げを通じて、町民の親睦を深め、幸田町のふるさとづくりの一助を担っている。

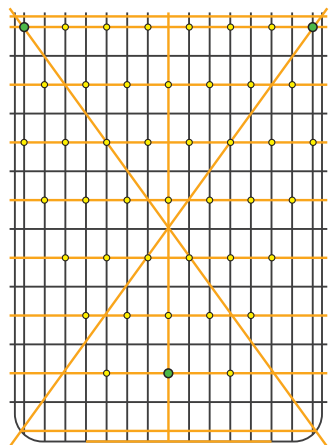
まつりの歴史と概要

「こつた風揚げまつり」は、昭和51年度に開催された「第1回新春風揚げ大会」がそのはじまりである。平成10年度までは、大会に加えて「風作り講習会」も行われていた。平成9年度から「こつた風揚げまつり」と名称を変え、現在にいたる。

「こつた風揚げまつり」は、地元地区や企業のみならず、全国から総勢1000名以上が集い、風づくりの技を競い合う光景が繰り広げられる。会場は、幸田町菱池の田園地帯である。電線や電柱のない水田地帯。風揚げには絶好の場所と言える。

風揚げ競技は、風の大きさ、種類によって、小風、中風、連風、全国、大

大風とは



大風骨組

風は「骨組」「風紙」「風糸」から成る。骨組は竹を材料とし、「真竹」と「女竹」という竹を使用する。真竹は、細く割って削りヒゴという状態に加工し、組み合わせる。柔らかくてよくしなる女竹は、ヒゴで組んだ骨組の補強をする。竹と竹は糸で縛って固定することができるだけ軽くすることが基本である。風紙は和紙を貼り合わせて使用する。下絵をもとに墨で輪郭を描き、そして色を付ける。絵の具は、大空で太陽の光に最も美しく映える染料を主に使用する。骨組と風紙はノリで密着させる。風糸は、人が引っ張る「揚げ糸」、風の上部両端と下部中央の3箇所につける「親糸」、風全体につける「子糸」がある。風と揚げ糸をつなぐ親糸と子

まつり当日

（1）最終準備

まつり当日の風をみて、風の反り具合の微調整や斜交い、背骨の調整を行う。風を寝かせ、高さを調節し、全ての張り糸が水平になるように、細心の注意を払って最終準備を行う。



大風の最終調整

（2）小風、中風、連風、全国の部

長辺が70センチ未満の小風、長辺が70センチ以上180センチ未満の中風、連風の部の申込みは、当日会場本部で受け付ける。伝統風から創作風まで自慢の手作り風100〜200基が空に揚がる。

（3）大風の部

競技には、地元地区、企業、学校、消防団など20団体から30団体に参加する。チーム員がそれぞれの配置で、風や糸を支えてスタンバイする。風を読み、指揮者の号令で一気に走り出し、揚げ糸を引っ張り風を揚げる。丁寧なつくり、息を合わせたチームワークにより、風は暴れず、静かに大空へ揚がっていく。引く、緩めるを繰り返すことで風を操作し、最大150センチまで



連風（アーチ風）

糸を伸ばす。

半年ほどかけて丹精込めて作られた大風が空に舞い、彩りを添える姿は圧巻である。その美しさと迫力に見守る来場者から湧く歓声が、大風制作者たちの心を満たし、親睦、交流が深まる。

（4）ステージイベント

風揚げ競技以外にも、ステージでの和太鼓の演奏や地元中学生によるダンスなど、来場者を楽しませるイベントが会場を沸かす。

まつりの現状と今後

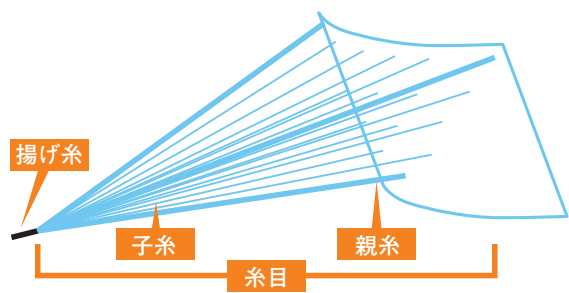
年々知名度が上がっていく一方で、近年では大風部門の参加が減っている。理由としては、地元地区風関係者の高齢化が考えられる。幸田町では、若い



大空を彩る大風



舞い上がる直前の大風



糸目



中央小学校の大風

世代にも風の伝統を引き継いでほしいと、地元の風づくり名人を講師に招き、風づくり講習会を開催するなど、伝統の継承に力を入れている。その結果、平成27年度には新しい行政区（桜坂区）が参加、令和元年度は六栗区、幸田高校が参加するなど、新しい団体の参加があった。

相互交流や親睦を趣旨とした「こつた風揚げまつり」も、近年では観光の目玉や正月の風物詩としてさらなる賑わいを見せている。平成25年度からは写真コンテストを開催し、令和元年度は160点の応募があった。ここ数年は2万5千人に上る観客が会場を訪れている。今後も「こつた風揚げまつり」がさらに充実し、より多くの人々に伝統文化である風揚げに親しむ機会を提供し続けることを願う。

中央小学校風クラブ

中央小学校には、クラブ活動の1つとして「風クラブ」がある。平成4年度に発足した「風クラブ」は、今年度30年目に入った。地元の風名人を講師に招き、毎年風1基を作成し、「こつた風揚げまつり」に参加している。令和元年度には、大風の部で教育長賞を受賞した。今後も風づくりの伝統継承に貢献していきたいと考えている。

【資料・写真提供】

幸田町教育委員会生涯学習課
☎ 0564・62・1111 内線195

アシカから教わった

生きるヒント

竹島水族館長 小林 龍二



Profile

こばやし りゅうじ

昭和56年蒲郡生まれ。北里大学水産学部(現海洋生命科学部)を卒業後、Uターン就職し地元の竹島水族館へ勤務。過去最低入館者だった12万人を改革し、47万人に回復させた。



◀竹島水族館
ホームページは
こちらから

入社3年目に「アイ」というアシカが水族館にやって来て担当させてもらえることになりました。バランス、ジャンプ、輪投げなどの様々な芸を教えて、ショーにデビューさせることが私の任務でした。

ところが、アイは毎日眠たげで、真剣に練習をしてくれません。真面目にやらないものだから、こちらも困るし気に入らない。そんな私の態度を見て、アイはますますやる気がなくなり、無理やり練習をさせられるという悪循環。鼻にボールを乗せてもすぐに落とすし、輪投げも飛んできた輪を首にかけられず顔にぶつけてしまします。それでも猛練習をして、なんとかデビューさせました。しかし、ショーの途中でプール内を泳ぎ回り、ショーをボイコットしたり、ひどい時はショーが始まって部屋から出てこず、私だけがステージに出ていつて待っているお客さんに謝ったりする始末。毎回ショーの時間になると、胃が痛くなりました。今日もお客さんに謝るのかと思うと、朝起きてても出勤したくない気持ちになるほどでした。加えて、これは使い物にならない、どこかの動物園にでも売ってしまおうかと、先輩飼育員達から

も話が出ました。担当の私も、アシカに芸を教えられない三流トレーナーだと先輩たちに思われてしまいました。

ショーをしたくない、運動神経が悪く練習も嫌う困ったアイでしたが、反面、人間を全く怖がらず愛嬌があり、噛みついいたりもせず体に簡単に触れさせてくれるという良い面もありました。できないことを無理やり練習させるより、良い面を伸ばせないものかと考え、ショーで芸をこなすのはやめて、ショーの時間になると客席まで連れていき、お客さんと記念撮影をしたり体に触ってもらったりしました。すると、お客さんはみんな大喜び。アイも、嫌なアシカショーをやられるよりラクだし、これは良いと思ったのかやる気満々で、時間になると自分から部屋を出て大活躍しました。私も、お客さんに謝ってばかりいた時よりも気分がいいし、喜ぶお客さんと生き活きしているアイの姿が見られることに喜びを感じるようになりました。

それまで私は「水族館のアシカは一生懸命に芸を覚えてショーに出て活躍するもの、失敗は許されない、そのために毎日心を鬼にしてアシカと猛

練習をする」という考えで取り組むことを最善としていました。しかし、そういった常識にとらわれず、長所を伸ばす活動を取り入れるなど、ちよとした発想の転換で一気にな道が開けることをアシカのアイが教えてくれたのでした。

我々は、普段からそこで暮らしたり働いたりする中で、様々な常識や型、当たり前前に縛られていることが多く、なかなかそれに気が付くことが出来ず、苦しみ悩んだでいるのではないのでしょうか。常識に縛られた脳を、別の視点や発想の転換で柔軟かくして考え、意外な突破口やひらめき、明日から楽しく明るく暮らせる秘密が溢れてくるのかもしれない。アシカに限らず、水族館の生き物たちから、色々なことを学ぶ毎日です。



自らアシカショーに取り組む館長

教室の窓辺

社会科×ICTの可能性

「わかったこと」を形に

知立市立知立中学校 教諭 泉 里紗

「娘が、先生が作った動画を繰り返し見て、『緯度と経度がわかった!』と喜んでいました。」これは、懇談会で、ある保護者からいただいた言葉です。昨年度、休校になった際に、本校はホームページを通して課題を出しました。1年を担当していた私は、中学校の社会科で学ぶ内容を少しでもわかってもらいたいと願い、自作の授業動画を公開しました。本当に生徒の役に立つのか、半信半疑でしたが、保護者の言葉から、生徒と直接には繋がらない中でも、思いを形にして届けられたのだと実感しました。

本校でも、昨年度の1月に生徒用タブレットが導入されました。社会科の授業では、大きく3つの場面で使用しています。例として、2年地理「日本の諸地域―近畿地方」での活用を紹介します。

1つ目は、資料の読み取りです。単元のはじめに、2007年と2015年の京都の町の写真を生徒のタブレットに送り、気付いたことを話し合いました。生徒は、写真を拡大したり、画面に印をつけたりして、「看板が減っている」「信号が

ない」などの点に着目しました。そして、「なんで?」という生徒のつぶやきから、「なぜ京都の看板は目立たなくなったのか」という学習課題を設定しました。

2つ目は、調べ学習です。学習課題について、「京都の伝統」と「他の都市との比較」の2つの視点で、グループ調べをしました。生徒は、教科書や資料集、府県別観光客数のデータを読み取りました。「大阪は、商業の都市だから看板が派手だね」「神戸や大阪はニュータウンの開発を行ったけど、京都は伝統的な景観を守ろうとしているね」など、わかったことを話し合い、タブレットを使ってまとめました。

3つ目は、発表です。グループ調べのまとめを大型テレビに映して発表しました。インタビュ形式、キャラクターを主人公として解説する物語形式など、発表の仕方も工夫しました。年度当初は教科書の文章をそのまま読んでいた生徒が、発表を重ねる中で、わかりやすく伝えようとスライドのレイアウトや発表方法を工夫できるようになつたと感じています。

このように、ICTを活用することにより、生徒は言葉や図表を駆使して、「わかったこと」を形にする力を高めることができました。

これからも、広い視野をもち、国際社会で主体的に生きる生徒の育成を目指して、ICTを効果的に活用した社会科の授業の在り方と可能性を追究していきたいと考えています。そのために、私自身の社会科の専門性とICT活用能力を高めていきたいです。



ICTを活用して学びを深める生徒

教員となつて3年目の泉教諭は、2年担任、社会科主任に加え、生徒会担当や吹奏楽部顧問として能力を発揮し、本校になくてはならない存在です。そして、常に生徒に寄り添い、教員同士の和を重んじる素敵な人柄の持ち主です。泉教諭の得意技の1つが、情報機器の活用です。一昨年の臨時休業の際には、他の教員に先駆けて学習用の動画を作成しました。私も厳しい目で内容を確認しましたが、その完成度に驚嘆したものです。他にも文化祭のオープニング動画を生徒と共に作成し、コロナ禍の学校行事を盛り上げることに成功しました。

私は、生徒や教員一人一人が、自分の「よさ」や「得意なこと」を生かして活躍できる学校づくりを目指しています。己の長所を存分に生かして活躍する泉教諭の今後の成長が、楽しみです。

(校長 尾崎 淳二)

特色ある教育活動

―「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介―

よみがえれ！

小垣江 ヘイケホタル

刈谷市立小垣江小学校

教頭 淵上 麻由美

本校は刈谷市南部の田園風景が広がる自然豊かな場所にあります。30年程前までは、小垣江の美しい小川沿いに、ホタルがたくさん飛んでいたそうです。

平成19年、翌年に小垣江小学校が創立百周年を迎えるにあたり、子どもたちと地域の方々が、おらが学校の自慢となり、誇りに思えることをしたいと考え、「ホタルの復活」に取り組むことにしました。そこで、校内にホタル小屋を建てました。それ以来毎年、地区の緑水保全会（現在のホタル会）の方の力をお借りしながら、4年生が総合的な学習の時間にこの活動に取り組んでいます。今年で14年目となるホタル活動の1年間を紹介します。

2月、4年生が大切に育ててきたホタルの幼虫を3年生が引き継ぎます。引き継ぎ式の次の日から、3年生の飼育作業が始まります。毎朝、ホタル当番がえさのタニシを細かく切って与えたり、水槽の清掃をしたり、幼虫の成長を観察して記録を取ったりします。また、ホタルが飛ぶビオトー



願いをこめてホタルの幼虫を放流する子どもたち

ネットの下に水を張ったバットを置くと、そこへホタルが産んだ卵が落ちます。小さな命の誕生から命の神秘を学んでいきます。子どもたちは、命の美しさ、はかなさ、大切さをかみしめます。今年



小さな命の誕生を見つめる子どもたち

は例年よりさらに多くの幼虫が孵化しました。孵化したばかりの幼虫はとても小さく、タニシをすり潰して与えます。来年の4年生のために心を込めて…。

こうした活動を通して、子どもたちはホタルが昔のように小垣江の川で見られたらどんなにいいだろうと思ひ、川の環境問題にも関心をもちます。小垣江を流れる川を、ホタルが住めるようなきれいな川にしたいという気持ちが生えあます。そこで、ホタル会の方の協力を得て、10月、EMだんごを作ります。しばらくすると、EM菌が発酵し真っ白なだんごが出来あます。11月、地区を流れる折戸川に、生き物がたくさん住むきれいな川になつてほしいと、願いをこめてEMだんごを沈めます。その後は、3年生に引き継ぐためにホタル活動で学んできたことをまとめていきます。

このように、ホタルの再生活動は、地域の方に支えられながら、本校に根付き、子どもたちの心を育てるためになくてはならない活動となっています。

令和3年度

「個人研究助成」

～審査を終えて～

この度、平成30年度から3年間、研究を推進された10名の先生方の最終論文審査が行われました。

どれもコロナに怯むことなく、工夫し、実践したであろう授業が想起できるものばかりでした。ここでは、岡田守審査委員長の話の概要とともに、優秀と選出された3名の先生方を紹介いたします。

講評

審査対象となった10点の論文は、すべて、目の前の子どもを的確にとらえ、子どもの姿から導き出した仮説のもと、目指す子ども像に力強く迫っていくこととする熱い思いが伝わってくるものでした。先生方が子どもの成長を第一に考え、真摯に取り組む姿勢から、その根底に流れる三河教育の確かさを改めて感じることができました。

3年間の継続研究を推進するなかでは、異動や学年配当など、状況がかわることは避けられませんが、にもかかわらず、継続的にそして関連的、発展的に研究が進められることは、研究の根幹が確かな証です。また、教科・領域指導だけでなく、不登校を取り上げた論文がありました。目の前にある喫緊の課題に挑む姿勢は、多くの審査員の共感を呼びました。

子どもの育ちに責任をもつ10の手法が、同じ地区はもとより、三河の先生方に影響を与えるように広まることを願っています。

研究成果論文審査結果

最優秀賞

安城市立桜林小学校

石川 美佳



友達と考えを聴き合い、自分の考えを深めようとする子をめざして（国語）

優秀賞

刈谷市立東刈谷小学校

神谷 貴公



児童一人一人が理解の深まりを実感できる算数の学習（算数）

優秀賞

幸田町立北部中学校

犬塚 創太



身近な素材をもとに「主体的・対話的で深い学び」を実現できる子の育成（理科）

令和3年度 教育図書出版助成

本法人では、教育文化の振興と子供たちの健やかな成長を願い、教育図書の出版に助成するとともに、その内容を広報しています。

三河の小中学校教員及び、教員であった個人、これらの方々を代表とするグループが、学校・家庭・地域に関わる教育をまとめた図書で、経費の多くを公費等の援助を受けずに出版したものを対象としています。

本年度は、審査会において1点の助成が決定されました。なお、令和4年度の応募要項は、本法人のホームページに掲載されます。

中学校美術 テッパン題材モデル （第1学年、第2・3学年）

監修 竹井 史・中村僚志
編著 三浦英生・安藤真樹
著 中村僚志・牛山晴登・寺田眞一
愛知県造形教育研究会
A4判 143頁 2260円

本書は、昨年度出版した『小学校図工 テッパン題材モデル』の中学校美術科版になる。愛知県造形教育研究会が、実践してきた授業の中で、生徒たちが夢中になって制作や鑑賞に取り組むことで、



深い学びができる題材を集めた。中学1年生、中学2・3年生の2巻に分けて、約60の実践を絵画・立体・工作・デザイン・鑑賞の領域ごとに掲載している。また、新学習指導要領改訂のポイントや本書との関連についても分かりやすく解説している。さらに、題材ごとに評価シートが掲載してあり、授業を進めながら、3つの観点で評価ができるので、教職経験の浅い先生方にも大いに役立つ内容・構成になっている。

一つの中学校で、美術科を担当する教員は少なく、授業作りについての意見交換や教材模索することが難しい。各種研究会や研修会が中止になる現状がある。そうした時に、本書に掲載されている実践が参考になる。

令和3年度

かきぞめコンクール



「かきぞめ手本」を題材にした第11回
かきぞめコンクールを実施したところ、
三河地区から小学生の部2269点、中
学生の部408点、計2677点の応募
がありました。

書家・編集委員の先生方が審査し、最
優秀賞9点、優秀賞18点、佳作63点、奨
励賞180点を選びました。入賞者一覧
をホームページに掲載しています。

本年度も昨年度に続き、コロナ感染防
止の観点から、作品展と表彰式を中止い
たしました。心待ちにしていた子供たち
やご家族の皆様、関係各位におかれまし
ては、大変落胆のことと推察いたします。
そこで、最優秀賞と優秀賞
に輝いた作品を、本法人
ホームページにて紹介して
います。ご覧ください。



なお、本年度は本法人が刊行している
「かきぞめ手本」(小3、小6、中3)
において、書家の先生方の毛筆動画が見
られるQRコードを、手本に付随する評
価表に掲載しました。来年度は小学2年、
小学5年、中学2年も掲載していきます。
ご期待ください。

講評

「かきぞめ手本」編集委員長

豊田市立追分小学校長 柴田みどり

コンクールに出された全作品は、子供
たちが奮闘する姿を伝えていました。

1、2年生の硬筆では、太くのびのび
とした字が、小さな手に力を込めて書く
姿を。わずかな字の揺れは、緊張して手
を震わせながら書く姿を。3年生以上の
毛筆の、字形が整ったバランスのよい作
品は、手本をよく見て書くこうと努力する
姿を。勢いのある作品は、書くことを楽
しんでいる姿を。また、中学生の行書の
作品からは、つながりを意識して筆を運
ぶために、気持ち最後まで集中させて
書く姿を想像することができました。

自分と向き合い、渾身の1枚にたどり
着くまで努力したことに価値があります。
これからも、自分の作品を大切に、
書き続けていってほしいと思います。



令和3年度かきぞめコンクール入賞者（最優秀賞・優秀賞・佳作）一覧

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年
最優秀賞	西尾・平坂小 榊原 英悟	西尾・平坂小 鳥居 咲良	豊田・大林小 渡辺 由真	安城・桜井小 伊藤 絵天	豊田・駒場小 山田 晴	豊田・野見小 高島 悠生	豊田・末野原中 竹花早耶香	豊田・前林中 山田 柊	豊田・崇化館中 浦浜恵里華

優秀賞	豊田・朝日小 堀 唯花	豊田・野見小 水澤 菜緒	刈谷・小垣江小 加藤 亜子	豊田・中山小 伊藤 颯汰	岡崎・美合小 鎌田未奈萌	岡崎・美合小 小野田百華	岡崎・竜海中 鳥居 紗妃	豊田・美里中 村瀬 七海	豊田・崇化館中 椎葉 芽生
	西尾・一色南部小 鈴木 歩愛	蒲郡・蒲郡南部小 篠原 耕壽	豊田・野見小 村瀬 結香	豊田・野見小 水澤 幸香	豊田・野見小 村瀬 朱音	岡崎・美合小 椎葉 颯太	豊田・豊南中 山崎 愛美	安城・東山中 坂口 陽香	豊田・上郷中 中原百合菜

佳 作	岡崎・梅園小 小森 結仁	豊田・四郷小 梅村 心雪	岡崎・三島小 判治 里紗	岡崎・美合小 柴田紗弥羽	豊田・元城小 岩瀬 ゆめ	豊田・朝日小 村松 泰征	豊田・逢妻中 橋屋 柚希	岡崎・竜海中 宮原 伶歌	豊田・高橋中 磯谷 莉子
	刈谷・東刈谷小 オウ マギ	豊田・中山小 伊藤 里紗	碧南・新川小 大村 允天	豊田・寺部小 川澄 莉子	豊田・寺部小 加藤 彩羽	豊田・市木小 村瀬 敦哉	豊田・梅坪台中 小野 爽	刈谷・朝日中 柘植いずみ	豊田・高橋中 小松 起子
	豊田・拳母小 杉山 杏紗	西尾・矢田小 永江 彩香	刈谷・小垣江小 加藤 希子	豊田・寺部小 澤田 朋果	豊田・東山中 大嶋 千悠	豊田・広川台小 内藤 零月	豊田・梅坪台中 初田 桃花	豊田・崇化館中 上田 笑瑚	豊田・高橋中 新開 瑠奈
	豊田・寺部小 栗田 桃子	西尾・平坂小 安部佑愛乃	豊田・野見小 高島 彩加	豊田・寺部小 柴田 栞歩	豊田・小清水小 兵頭 侑夢	豊田・堤小 沼崎 結貴	豊田・末野原中 深津 心那	豊田・崇化館中 中村 栞	豊田・上郷中 荒牧 李來
	西尾・矢田小 加藤 星奈	西尾・平坂小 大野仁衣奈	豊田・前山小 水口優莉子	豊田・市木小 村瀬 愛佳	安城・安城北部小 濱野 蒼太	安城・作野小 野尻 悠真	安城・東山中 早瀬ひより	豊田・上郷中 加藤 夢結	豊田・末野原中 工藤 菜央
	みよし・黒笹小 阿久沢映翔	西尾・一色東部小 杉浦 陽奏	安城・今池小 杉浦 絢音	安城・桜町小 江見つくし	安城・桜井小 高松 ゆり	西尾・吉田小 平山 凜香	西尾・吉良中 澤田 淳志	豊田・松平中 川上 優空	安城・東山中 天野 芽
	蒲郡・蒲郡北部小 小池 花	蒲郡・形原小 鈴木 湖己	西尾・平坂小 岩田 望央	みよし・中部小 尾藤 朝飛	蒲郡・竹島小 増木 悠真	幸田・中央小 高橋 由芽	幸田・南部中 小野良有芽	安城・東山中 市川 桜子	西尾・東部中 富田 理央

最優秀作品の紹介

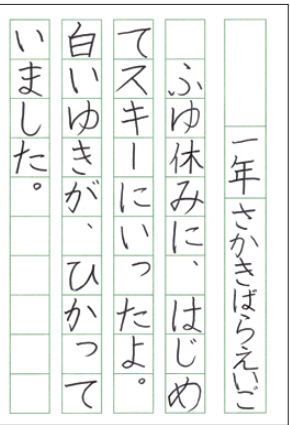
本年度のかきぞめコンクールで、最優
秀賞を受賞された9名のみなさんの作品
を紹介します。

〔小学生の部〕

西尾・平坂小学校

一年

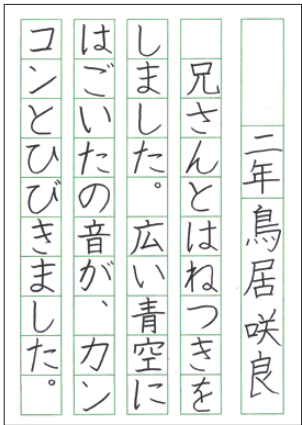
榊原 英悟



西尾・平坂小学校

二年

鳥居 咲良



豊田・大林小学校

三年

渡辺 由真



安城・桜井小学校

四年

伊藤 絵天



豊田・駒場小学校

五年

山田 晴



豊田・野見小学校

六年

高島 悠生



豊田・末野原中学校

一年

竹花 早耶香



豊田・前林中学校

二年

山田 柊



豊田・崇化館中学校

三年

浦浜 恵里華



平成30年度より始まりました「みかわ彩発見絵画コンクール」も今年で4年目を迎えました。本年度は、春・夏の部に1410点、秋・冬の部に487点の応募がありました。応募にご協力いただきました皆さんにお礼を申し上げます。

本年度の最優秀賞入賞者とその作品、優秀賞入賞者を紹介します。残念ながら予定していました「表彰式」と「作品展」は開催することができませんでした。そこで、ホームページには入賞者の一覧とともに、最優秀賞・優秀賞に輝きました作品を掲載しています。ご覧ください。



「学校賞」を3校に贈呈

「みかわ彩発見絵画コンクール」に積極的に取り組んでいる学校の中から、特にその取り組みが顕著な学校に対して、本法人から3校に「学校賞」を贈呈しています。選出にあたり昨年度より新たな基準として、児童数500名以上の大規模校、児童数150名以下の小規模校、その中間の中規模校に分け、選出しました。本年度は次の三校に決定をしました。

《大規模校》該当校なし
《中規模校》豊橋市立旭小学校
幸田町立深溝小学校
《小規模校》豊川市立千両小学校
選ばれました学校の応募児童全員に、本法人から参加賞として鉛筆が贈られました。

講評

三河教育研究会造形部会長
西尾市立米津小学校長 丹羽 圭介
今年は、春・夏の部、秋・冬の部合わせて1897点もの作品応募がありました。コロナ禍で十分な活動の確保が難しい中において、三河各地区の先生方が、子どもたちの感性を豊かに育てる造形教育に力を注がれたことに深く敬意を表すものであります。

子どもたちが制約のある活動の中でも制作に集中し、さらに楽しみながら描いていると感じられる作品を数多く見ることができました。それは先生方が、子どもたちの思いに重きを置いた造形活動を大切にされていることの表れだと思います。そこで、発達段階に応じた、子どもらしい感性がよく表現されている作品を今回も選出いたしました。

本絵画コンクールは、三河の「くらし」「まつり」「ふるさと」をテーマに、人々の姿を通して子どもの感性を磨くために開催されています。今後も、先生方の授業実践の中で磨かれた、表現力あふれる作品の応募を期待しています。



最優秀賞入賞者及び作品 (秋・冬の部)



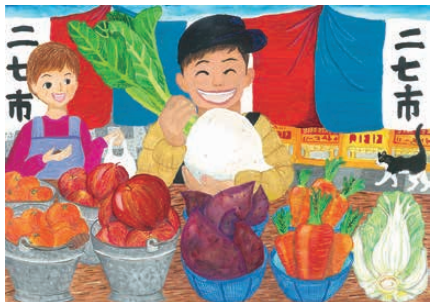
完成!! 氷の中にいっぱいの花びら
田原・清田小学校
3年 白谷 心美



ママといっしょにゆきだるまをつくったよ
岡崎・羽根小学校
1年 河内 英音



雪そりきょうそう、勝つぞ!!
豊田・前山小学校
2年 坂本 和香奈



地元の物いっぱいの二七市でお正月の準備
岡崎・小豆坂小学校
5年 増永 稟



とてもやさしい長生きな木(校庭の木)
豊橋・旭小学校
4年 小森田 楓美



ハードルをとびこえている私
幸田・荻谷小学校
6年 林 凜音

優秀賞入賞者 (秋・冬の部)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
豊田・土橋小 竹村 来晴	岡崎・根石小 坂口 詩歩	知立・知立南小 山本 新太	岡崎・大門小 山下 凌空	岡崎・附属岡崎小 貝沼 姫和	西尾・室場小 阿部 仁海
豊川・千両小 中野さより	安城・作野小 山内 虹歩	豊田・童子山小 青山 結飛	豊田・根川小 平岡 梨沙	豊川・牛久保小 小林 柚菜	豊橋・八町小 橋本みのり

最優秀賞入賞者及び作品 (春・夏の部)



プールのれんしゅう
豊田・衣丘小学校
1年 伊藤 えみり



またいきたい花火大会
岡崎・井田小学校
2年 足立 航基



つく高原で星空キャンプ
豊橋・向山小学校
4年 山口 ちえり



田んぼでほたる見つけた!
豊田・衣丘小学校
3年 辰巳 碧



夏詣
刈谷・衣浦小学校
6年 宝野 一真



遊ぼっ茶広場に吹く風
安城・新田小学校
5年 峯村 日菜子

優秀賞入賞者 (春・夏の部)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
岡崎・羽根小 河内 英音	岡崎・羽根小 山本 涼惺	知立・知立小 寺田 七望	西尾・鶴城小 亀島 秀汰	豊田・衣丘小 辰巳 永	安城・桜町小 藤田 亜弓
豊田・土橋小 竹村 来晴	岡崎・小豆坂小 増永 奨	豊橋・鷹丘小 桃野 倫太郎	知立・知立西小 手嶋 敦希	豊川・牛久保小 小林 柚菜	豊川・国府小 森下 颯也

4月1日
から教材PDFデータ
ダウンロード開始!

ダウンロードサイト構築に向けて新たにドメインを取得し、学校ごとに用意した専用サイトからダウンロードしていただきます。

PDF



13刊行物の教材PDFデータをご提供します。

小学校

ことばのきまり 算数の学習 英語の学習
算数の友 せいかつかノート いのち
ふえのひびき みんなの安全

中学校

社会演習 数学演習
数学の友 中学生の学級活動
中学生の安全

使ってみて



活用事例、工夫やアイデア、
お気づきの点や要望等がありま
したらぜひお知らせください。



大型モニターに映して…

教材研究…



教材PDFデータのダウンロード手順



- ① 文化振興会のダウンロードサイト (<http://bunsin.net/login>) へ、ブラウザでアクセスしてください。
- ② 下記の画面で、貴校の学校IDとパスワードを入力し、ログインボタンをクリックしてください。
- ③ 貴校のダウンロードサイト画面がでます。□にチェックをし、ダウンロードボタンをクリックしてファイルをダウンロードしてください。ファイルが1つの場合はPDFファイルですが、複数のファイルがある場合はZIPファイルにして1つにまとめてありますので、ダウンロード後、学校にて展開してください。
- ④ チェックしたファイルがまとめてZIPファイル一つになってダウンロードされます。展開してご活用ください。

ダウンロードサイトに関する
問い合わせ先

ICT部（水鳥・名倉）まで。

TEL 0564 - 51 - 4819
<https://www.bunsin.org>



文振HP
お問い合わせ

公財財団法人 愛知教育文化振興会

教材PDFダウンロード

学校番号とパスワードを入力して
ログインしてください

学校ID
パスワード

ログイン

ネイチャーウォッチング



令和3年11月28日(日) 豊橋市・伊古部海岸

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せていることを受け、「第3回ネイチャーウォッチング」を開催しました。25家族73名の皆さんが参加し、「化石を発掘しよう!」を予定通りに行うことができました。

会場は、豊橋市南部の太平洋（遠州灘）に面した伊古部海岸。砂浜の近くまで断崖が迫る地形で、この崖から化石が産出されるのです。講師として指導していただいたのは、岡崎女子大学非常勤講師で日本古生物学会会員の田島広嗣先生。化石採集の方法、注意点など化石発掘について詳しく教えていただきました。

崖の真下は危険が伴うため、田島先生が割り出した石を、お父さん方や学生スタッフが運び、その石を親子で割って化石を探します。砂丘の斜面上に家族単位で少しずつ距離を取っての化石探しが始まりました。子どもたちが夢中になって化石を探す姿や輝く瞳が印象的でした。



講師の田島先生のお話

参加者の声



大きい貝がらの一部が見つかって良かったです。化石がたくさんとれて良かったです。とても楽しかったです。もっと長い時間やりたくらいでした。(子)



外ではくつするのをはじめてで、すごいなと思いました。海に来るのはひさしぶりで気持ちよかったです。またやりたいです。(子)

見事な
木の葉の化石も!

親子単位で化石を探しました!



貝がらがたくさん出てきて、子どもも分かりやすく楽しめた。開会式の説明も分かりやすかった。葉っぱ、ウニも出てきて感動!化石発掘が一番やりたかったので、開催してもらえてとても嬉しかったです!!ありがとうございました。(親)



普段見ることがないくらい子どもが夢中で取り組んでいて驚きました。子どもに分かりやすい説明で興味をもつことができました。とても素晴らしいイベントに参加させていただき嬉しいです。(親)

文 振 だ よ り



みかわ彩発見絵画コンクール「学校賞」(豊橋・旭小)

- ◇ 令和4年度版刊行物第1期注文につきましてありがとうございます。令和4年度版の刊行物では、QRコードを22の刊行物に掲載し、教師用PDF版も13の刊行物で作成して、現在配付準備中です。教師用PDF版は、新年度の4月1日よりデータをダウンロードしていただける予定です。詳細は、本誌15ページをご覧ください。先生方がタブレットPCを用いて、刊行物を授業等どのように活用するのか楽しみです。先生方のさまざまな活用法をぜひ教えてください。PDF作成等、今後の刊行物のデジタル化の参考にさせていただきます。
- ◇ 2月8日に開催を予定していた「第2回編集委員長・関係部会長会」は、初めてWEB会議で行いました。特に、令和5年度版の刊行物の編集についてご理解をいただきました。コロナ禍で文振の諸事業を少し変更せざるを得ませんでしたが、皆様のご理解とご協力のおかげで無事に推進することができました。



申請書提出・刊行物注文締切

- 個人研究助成(2年次・3年次)申請書提出/令和4年4月28日(休)
(1年次)申請書提出/令和4年6月10日(金)
- 郡市研究・団体研究助成・学校ボランティアグループ助成
申請書提出/令和4年5月9日(月)~20日(金)
- ◇第Ⅱ期刊行物注文締切/令和4年5月9日(月)~12日(木)



会議の予定

- 第1回文振郡市正副代表者会 4月15日(金)
- 第1回文振郡市事務担当者会 4月22日(金)
- 第1回編集委員長会 6月10日(金)

ネイチャーウォッチング

令和4年度のネイチャーウォッチングの計画が決まりました。
少しでも多くの親子に参加していただけるよう、A・Bの2つの日程で実施します。

対象 三河地区に在住し、小学生とその保護者で希望する親子

応募期間 令和4年4月1日(金)~5月6日(金)

A日程 定員/30組

- A1「めざせ 虫博士」** セミ、トンボ、チョウなどの昆虫採集体験
日時: 6月26日(日) 9:30~12:00
場所: 岡崎市少年自然の家 (岡崎市須渚町)
- A2「干潟の鳥ウォッチング」** シギ、チドリ、サギなどの野鳥観察体験
日時: 9月25日(日) 10:00~12:00
場所: 汐川干潟 (田原市緑が浜)
- A3「化石を発掘しよう」** 貝や広葉樹などの化石採集体験
日時: 11月19日(土) 10:00~12:00
場所: 豊橋市野外教育センター前海岸 (豊橋市伊古部町)

B日程 定員/30組

- B1「川の生き物調べ」** 水生昆虫や川魚などの生き物調査体験
日時: 8月20日(土) 9:30~12:00
場所: 鳥川・岡崎市ホテル学校 (岡崎市鳥川町)
- B2「里山の生き物ウォッチング」** 秋の生物(虫、植物、鳥)の観察体験
日時: 10月22日(土) 10:00~12:00
場所: 東三河ふるさと公園 (豊川市御油町)
- B3「星空ウォッチング」** オリオン座、すばるなどの天体観測体験
日時: 11月27日(日) 17:30~19:30
場所: 岡崎市少年自然の家 (岡崎市須渚町)

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化

令和4年3月1日号
No.128

発行/公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

TEL 0564-51-4819
https://www.bunsin.org



※QRコードは㈱デンソーウェブの登録商標です。